

令和5年度 認定特定非営利活動法人UNE 事業計画書

I 理念

私たち UNE は障がい者も高齢者も、そして健常者も若者も、全ての人が人間らしく、誇りを持って一生安心して暮らせる 持続可能な“ユニバーサル社会”を農園芸作業を通じて 構築発展させていくことを目指します。

II 方針

1. 本年度の重点

今の NPO が抱える以下の3つの課題に対してそれぞれ具体的な目標を掲げて取り組む。

① 市民からの支持拡大

UNEの事業、活動の情報を分かり易く広く発信することで、多くの人たちからの共感を集め、活動への支援を募り、個人会員を増やすと共に、寄付をしてくれる個人、企業を増やすことで、強固な財政基盤を築き優秀な人材確保へとつなげる。

② 自らのアイデンティティの再確認と他者との連携強化

UNE の理念である「ユニバーサル社会」「持続可能な社会」の形成、農福連携の推進、格差社会の是正をテーマに掲げ、政治（行政）、企業に対して建設的な提案を行うために自らの提言力、行動力、交渉力、そして対話力等の向上に努めると共に、同様な理念、目的をもって活動している NPO や公益団体、企業等とのネットワークを形成し、加えてメディア、研究者、労働者、消費者等との連携を図る。

③ 能力向上、ガバナンス（公正な判断と運営）、アカウンタビリティ（説明責任）

2019年長岡市初の「認定 NPO」になり既に4年が経過し、財務、労務等の管理も改善され、様々なデータも作成できるようになり、ガバナンス関係の情報発信も可能となった。寄付行為を受けることが出来る「認定 NPO」の特長を生かすためにも積極的な情報発信に努め個人、団体等の寄付を集める。

2. 具体的な取り組み

① 活動指針

- 農福連携を通じて活動の充実・拡大を図り、多くの障がい者、生活困窮者、高齢者、そして一般市民が活躍できる新たな「しごと」の創設、拡充を目指す。
- スタッフ（職員及びボランティア）の適材適所の配置、毎日の作業指示の明確化を図り、ユニバーサルな労働環境の確立・充実に努める。

- 昨年度の自主事業収益は、前年度に比較して27%も向上したが、人材の定着が上手く行かなかったこと、ウクライナ戦争による各種材料費、光熱費の高騰、そして一昨年度の協議会の経常赤字を一部清算したこともあり、2年続けての赤字決算となった。しかしながら赤字額は昨年度より圧縮出来たので、新年度は赤字解消を目指す。
- ノウフクレート、ノウフクメンバーを指標とし、事業、作業のスクラップ&ビルドを洗い出す1年とし、経費の節減、そして売上金額及びボランティア利用者の工賃向上に努める。
- 2年間、共同募金会のテーマ型募金制度を活用して、令和3年度は111万円、令和4年度は81万円の浄財をいただいた実績を踏まえ、今年度は認定NPOの特長を生かし、独自の寄附事業を展開することで、補助金、助成金への依存割合を少なくするよう取り組む。

② 補助、助成事業

- 長岡市地域活動支援センター補助金(確定)
- 『にいがた。新テーマ型募金』新潟県共同募金会 OasisR(確定)
- 農山漁村振興交付金 農福連携支援事業(2年目)
- 持続的生産強化対策事業(薬用作物等地域特産作物体制強化促進 ドクダミ(確定)
※北苜頃・一之貝・軽井沢集落連携促進協議会にて申請、採択された。
- 赤い羽根共同募金畑事業(予定)
- 赤い羽根福祉基金への応募(検討)

③ 総務、労務

- 農業の若手担当者の雇用。※長岡市研修支援金事業等を活用
- 障がい者雇用の1名増員。※特定求職者雇用開発助成金の活用
- 市民ボランティア:地域高齢者、障がい者、生活困窮者等の利用者の増員。
(農福連携を通じての拡充:長岡市生活支援課、福祉課、産業支援課
障害者就労・生活支援センター、若者サポートステーション等からの協力)

Ⅲ 事業実施計画

Ⅰ. 地域活動支援センターUNEHAUS 運営事業

農福連携を柱として、参加する障がい者及びそこに集う人たちが、安全に効率的かつ楽しく作業できるように作業環境、段取りの充実に努め生産性と売り上げの向上を図ると共に、より多くの人たち、そして誰もが参加できる「しごと」を創設しそれを積極的に発信する。

昨年度、農林水産省交付金事業で建設した UNEHAUS 前広場のテラスを活用した「しごと」の拡充を図る。

スタッフ、利用者、ボランティアの高齢化が進み、大きな課題となっているので市役所等の関連機関、長岡市高等総合支援学校との協働を図りながら若い世代の参加拡大に努める。

2. 農業生産・加工事業及び販売

1) 米

これまで耕作しながらも未登記であった一之貝大谷内地区の田んぼは、中山間地の補助金が貰えず加えて、猪の被害にあっても農業共済の対象にならなかったため、新たに一之貝でもうまい米の産地として名高い「雷地区」に約 60a の田んぼに大正糯の作付けをすることにした。

管理作業を計画的・効率的に行うことで生産性・品質・収量の向上に努めると共に、食味のコンテンツに出品し旨い米づくりに努める。

猪等の獣害に対しては昨年自製の箱わなを作製して仕掛けたが不発に終わったので、今年は「括り罠」等の新たな対策を講じる。

2) 畑

4 年前より、原信労組、連合中越、長岡市民協働センター等が OasisR に参加してくれるようになり、イベントを中心に人が集まり交流が進み始めている。

今年度は新潟県共同募金会のテーマ型共同募金で 861 千円の浄財を頂いた。昨年行ったイベントの反省を生かし、各団体とのより綿密な意思の疎通を図りながら参加者や参加団体が楽しく実りある体験が実施できる場所である事を認識できるように努めると共に一般の参加者も参画できる下地を作る一年とする。

なお、国土交通省が認定する「河川協力団体」として 4 月、7 月そして 11 月のイベント時に農園周辺のゴミ拾いを実施して環境の美化に努める。

また、これまで実施してきた子ども園などのイベントも引き続き開催し、老若男女誰もが集える空間として OasisR を運営する。

3) 加工事業

①くろもじ

人流が本格的に復帰、売り上げ増を見込み生産性の向上を図る。具体的には令和 4 年度に実施した冬季間の集中化の効果を検証しグリーンシーズンにできるだけ他の仕事ができるよう作業の組み換えの検討を行う。また、取り扱い店舗を 1 店舗増やす事を目標とする他、Amazon への出品も検討し実施する。

②大正餅

売り先からも納品数増を打診されているので昨年よりも1割程度増産を行う他、原料米の外部販売値上げも有るので、その点も含め価格の整合性を確保する。それに伴いふるさと納税返礼品の見直しを行う。

③梅干し

「うねの梅干」として直売所でも安定的な売上が獲得できるようになってきたので、採取量を増やすために梅を提供して貰える方々を募る。昨年仕込み場所、貯蔵場所としていたIKUREYA1908HAUSが宿泊施設として使用できなくなる事を想定してKS☆HAUSの車庫を整理し、仕込みや貯蔵を行うようにする。

その他、売り先が増えるので仕込みの仕方や使う道具を整備し、現在多く出ているつぶれ梅(正製品にならない梅干し)を極力出さないような工夫を行うと共に、仕込み道具の精査を行い、購入を検討する。

④ 売り先の獲得と精査

三条市栄町のJAえちご中越の直売所「ただいまーと」でお茶と梅干しの販売を4月より開始する。それに伴い見附のイングリッシュガーデンでの出店も検討する。関原のJA直売所は開始後半年経過するが中々売上が伸びないので精査し今後の販売継続について検討する。

3. 農業サービス・採取事業

誰もが気軽に携わることが出来る農福連携作業として、これまでUNEが独自に開発して来た分野であり、今後地域の農地、森林等が、後継者がいないことで改廃、放置されることが予想される今、これからも以下の「採取事業」を積極的に拡大し、大勢の方々が参画できるような事業として発展させる。

(1) くろもじ採取

これまで通り薬用飲料会社に定量出荷すると共に、近年人気が出ている「クラフトジン」の原料としての引き合いも出て来たので新たな出荷先の拡大を図る。

業者と折衝した中で、栃尾地域を新潟県内の貯蔵と細断のハブ機能を持つ地域になるよう検討し天気に左右されない屋内での新たな「しごと」の創出を図る。

(2) 笹

昨年より、地元の高齢者の方々から採取後の調整作業に参加して貰ったことで、数量、品質の向上が図られた。今年度もこれまで通り生笹の出荷を行うと共に、昨年試行した細断した乾燥笹の業者への出荷も継続拡大する予定。

(3) ヨモギ

ヨモギの出荷量は過去3年来拡大傾向にあり、今年度は栽培面積を20a 拡大、加えて肥培管理、除草管理の充実を図り更なる出荷量の向上を目指す。加えて昨年より取引を開始した「ヨモギ蒸し：韓国式健康法」の原料としての出荷拡大も目指す。

(4) ドクダミ

北荷頃・一之貝・軽井沢集落連携促進協議会の今年度事業として、農林水産省の補助事業の採択が決定し、改廃田んぼ 6a でドクダミの栽培実証試験を行う。JA や夢ガーデンなどの関係団体と協力してヨモギ同様、出口を決めた作物として栽培、販売することを目指す。

(5) イチョウ葉

ドイツではイチョウの葉が認知症の薬として既に活用されており、日本でも認知症のサプリメントとして利用されているので今後期待できる作物であると思う。

昨年、管理委託を受けた栃尾東谷地区のイチョウ畑を使って、業者にイチョウの葉の出荷を予定している。

(6) 銀杏

前述のイチョウ畑の銀杏を収集し JA の直売所等への販売をする。また、越冬した銀杏を採取し「雪下銀杏」として競合のいない時期に JA 直売所にて販売を行う。

(7) 萱(かや)

有機栽培用のマルチ資材、プランターの底に敷く「底石」代わりになるような提案で商品化を行い、現在取引がある3つのJA直売所等で販売する。

4.障がい者の仕事となりうる請負事業

1)これまで通り、造園業者、ビル管理業者、そして一般家庭等からの委託作業に積極的に取り組むためにも市民ボランティアの増員に努める。

2)昨年度は雪降ろし事業が計画的、そして安全かつ効率的に実施できた。ノウハウの蓄積が出来たので経済的に雪下ろしが難しい要援護世帯の登録軒数をあと4~5軒増やしたい。スタッフの高齢化が顕著なので若手の確保、そして人員確保に努める。

長岡市が提唱している安全帯着用のための施設整備が、一般家庭に浸透していない不十分な状況の中、今後の困窮者世帯の具体的な雪下ろし方法が不明確で、どうしていかかが課題である。

5. 農村と都市との交流事業

コロナ禍の情勢を見ながらこれまで実施して来た中山間地域での生活や作業を体験するイベントを宿泊プランと合わせて行う。その他、立命館大学、大正大学を始めとしたインターン生も積極的に受け入れし、第二の実家として付き合いが継続するよう努める。

6. 地域活性化事業

これまで通り北荷頃・一之貝・軽井沢集落連携促進協議会の事務局として、農林水産省の補助事業：持続的生産強化対策事業（薬用作物等地域特産作物体制強化促進（ドクダミの実装栽培試験））を実施する。

7. 農村からの情報発信事業

「うね日和」及びネット（Facebook、Instagram、ホームページ）による情報発信の充実に努めると共に、「うね日和」の配布先についても拡大を図り、現在毎月950部を1,000部程までに増刷配布を目指す。

公式Lineを立ち上げ、UNEの会員、OasiRの参加者などへの情報伝達、発信などの利便性を高める。

8. 飲食事業

1) 給食

コロナ禍の終息が見え始めてきたので、より多くの来客者が気軽に来られるよう体制整備（大広間の環境、厨房の調理環境、接客体制、メニューの見直し等）について検討し改善に努めたい。また、給食士の後継者を探し育成を始める。

2) キッチンカー

① 弁当、赤飯

アオーレ長岡での販売を木曜と決めていたが、競合店も同曜日に出店を固定してきたので対策の検討を行う。又、以前より働きかけていたアオーレ長岡出店者との面談会を担当する市民協働ネットワーク主導で実現し、出店者同士で交流と協働する事で一緒になって賑わい感を出し、販売増を目指す。その他、キャッシュレスを導入し支払方法を多様化する事で顧客満足度を上げる。その他アオーレ長岡での弁当販売を精査し今後の事業見直しを図る。

赤飯は栃尾ショッピングモール「トッピー」での販売の他、JA直売所等での臨時販売も検討を始める。仕込みや段取りの共有も行き、仕込み作業を複数人の担当者ができるよう準備を始める。

②かき氷

従来のかき氷を売る観点から、体験を売る観点到に切り替え、自分でかき氷を作る体験販売を企画検討する。お客様自身でかき氷をすくい市販のシロップもかけ放題で手間を省き、かき氷を作る体験を販売するようにする。令和5年度は7/1.2に開催される「ただいまーと周年祭」への出店の他、千秋が原でのイベントにも同様の企画で参加したい。

9. 送迎事業

昨年度は、新潟県共同募金会のテーマ型募金を活用し送迎事業を実施してきた。今年度以降、助成は期待できないがこれまで通りボランティア、通院、買い物、給食、そして温泉送迎などをより計画的、効率的に実施し交通弱者の支援を行うことで、安心、安全に働き、暮らせる地域社会の実現に努める。

10. 人材派遣(事務請負)事業

北苜頃・一之貝・軽井沢集落連携促進協議会に事務局長として代表理事を派遣する。

11. 農家民宿事業

本格的に人流が再開される年と位置付け、各種イベントと組み合わせながら事業に取り組む。UNEHAUSの価格検討を行い、利益が出る仕組みにする。懸案のIKUREYA I908HAUSについても方向性を定める。各種補助金や助成金を念頭に事業化を行う中で、合致する補助金等の応募を検討し、継続的な来訪者と第二の故郷づくりを目指す。その他、キッチンカー同様キャッシュレスを導入する事でリアルマネーを持たない外国人への対応を行う。

12. 酒類の製造販売

1) どぶろく

これまでどぶろく製造の基礎を築いた杜氏の定年退職に伴い、後任の杜氏へ引継ぎが完了し、新たなどぶろくづくりに励んでいる。コロナ禍が収まった今、年間製造量1,000L、月平均、四合瓶120本の販売を目指し、どぶろく友の会会員の増員、販売小売店の開拓などに努める。

また三条の「ただいまーと」での販売も検討する。(新潟酒販経由で4月より販売を開始)

2) ワイン

ドイツフェストでの販売を中心に行う。UNEHAUSでも多少の在庫を持ち販売できるようにする。

13. その他事業

特になし

以上